

### 1 計画策定の基本的な考え方等

第二次中期事業計画（平成29年度～令和3年度）においては、本県の精神科の中核的医療機関として、県内全域及び始良・伊佐地域において、精神科に係る高度・専門医療に積極的に取り組んできた。

また、県内唯一の医療観察法病棟やスーパー救急病棟の運用により、収益の確保を図るとともに、経費節減に努めた結果、経常収支及び資金収支の黒字を継続して達成できた。

当院は、精神科救急情報センターとして救急患者の受入れについて県内全域の精神科病院と連携・調整を行い、「常時対応型精神科救急医療施設」、「医療観察法指定入院医療機関」として、精神科の救急医療、高度・専門医療を提供する役割を果たしている。

第三次中期事業計画は、県下全域の精神科の中核的医療機関として、医療ニーズに対応した高度で良質な医療を提供するとともに、引き続き経常収支及び資金収支の黒字を維持し、安定的な経営基盤の確立を目指すものである。

#### (1) 第二次中期事業計画の総括（医療面・経営面）

##### [ 医療面 ]

##### ① 病院を取り巻く諸課題への取組

県人口が減少する中でも、医療観察法病棟やスーパー救急病棟を中心として、全世代を対象とした精神科医療を提供するとともに、精神科認定看護師や感染症認定看護師を、民間の精神科医療機関や高齢者施設等へ派遣するなど、地域の医療機関等の支援も積極的に行ってきた。

また、精神疾患のある新型コロナウイルス感染症患者の受入病床を整備した。

今後も、県下全域における精神科の中核的医療機関として、医療ニーズや患者の精神疾患動向を見極めながら、高度で良質な医療を提供するとともに、県内で必要とされる専門外来の設置に向けて、鹿児島大学等の関係機関と協議・連携を図る必要がある。

##### ② 医療機能の充実策

触法精神障害者に対応するため、医療観察法病棟の入院体制を、常時対応型精神科救急医療施設や応急入院に対応できる病院として、スーパー救急病棟の入院体制を維持した。

本県の精神科救急情報センターとして、救急患者の受入れについて県内全域の精神科病院と連携・調整を行うとともに、地域の医療機関が受入れできなかった処遇困難な急性期入院患者を全て受け入れてきた。

また、高度な精神科医療（クロザピン（治療抵抗性統合失調症治療薬）、mECT治療（修正型電気痙攣療法）等）、及び民間で採算の取れない精神科医療を積極的に提供してきた。

さらに、入院患者の地域移行をより一層進めるため、地域医療連携室による退院支援を積極的に行うとともに、デイケアの内容充実や訪問看護体制の

拡充を図り、地域移行後の患者のケアを強化してきた。

新型コロナウイルス感染症の対応においては、陰圧環境を整えた感染症病床を整備し、精神疾患を抱える感染症患者を積極的に受け入れるなど、感染症対策の政策医療に取り組み、令和3年度末時点で延べ患者数で3百人近い入院患者を受け入れるとともに、感染の有無を確認するためのPCR等の検査に積極的に取り組んだ。

地域の医療機関や高齢者施設等に対する支援として、精神科認定看護師によるメンタルヘルス支援、感染症認定看護師による感染対策支援などを行ってきた。

今後は、発達障害やうつ病に対する認知行動療法や、児童思春期への心理療法等の強化を図るとともに、うつ病患者に対するrTMS治療（反復経頭蓋磁気刺激療法）の導入を図る必要がある。

### ③ 人材の確保・養成策

医師については、引き続き定期的に鹿児島大学への派遣要請を行い、必要な医師の確保に努めた。

また、協力型臨床研修施設として、研修医の計画的な受入れを行ってきた。

医療スタッフについては、精神保健指定医の研修参加、認定看護師等の資格取得に向けた研修参加を支援しスタッフの人材養成に努めた。

今後は、入院患者の地域移行を進める中で、退院患者の症状把握、患者や家族からの相談・支援を継続的に行う必要があることから、精神保健福祉士の適正な人員確保が課題となっている。

### ④ 地域医療連携のための方策

地域医療連携室を中心に、退院支援や地域移行支援、退院支援委員会の開催など地域との連携に努めてきたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、外部を交えた会議などは開催出来ない期間があった。

今後は、コロナ以前の対面活動の再構築を図るとともに、Web会議等を利用した連携についても推進していく。

### ⑤ 地域包括ケアシステムの構築に向けた方策

精神障害者の地域包括ケアシステムの後方支援病院として、地域での対応が困難な急性期、重篤な患者を受け入れてきた。

今後は、コロナ以前の対面活動を早期に再開し、地域の医療機関や福祉施設との顔の見える関係の再構築を図る必要がある。

### ⑥ 患者サービス

入院・外来患者を対象に満足度調査を実施し、診療環境や接遇の向上につなげるとともに、室内球技大会や敬老会等の季節のイベントを開催した。

また、計画的に病棟のリニューアル工事を行い、病棟設備の改善を実施した。

引き続き、患者サービスを向上させるための取組に努める必要がある。

⑦ 県民への普及啓発活動

年報「蘇心」の発行や広報誌「やすらぎ」の発行等を継続して行った。

しかし、心の健康講座は、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度以降は開催できなかった。

今後は、コロナ以前の対面活動を早期に再開し、地域貢献活動を充実させる必要がある。

[ 経営面 ]

① 収益確保策

入院患者数は、医療観察法病棟について、要請に応じて定床（17床）以上の患者の受入れや、スーパー救急病棟について救急患者の積極的な受入れを行った結果、全体として概ね95%程度の病床利用率を継続できた。

入院収益は、医療観察法病棟やスーパー救急病棟の安定した患者の確保により、計画期間中は約19億円の安定した額を確保できた。

外来患者数は、訪問看護体制の拡充やデイケアの実施により、2万4千人以上を継続できた。

外来収益は、患者数の確保により安定的な収益を確保できたが、令和2年度に後発医薬品への置き換えを行った結果、令和3年度は外来単価・外来収益が減少した。

今後は、医師や精神保健福祉士等の確保、公認心理師等の養成、CVP P P（包括的暴力防止プログラム）トレーナーの育成等、医療スタッフの確保・養成に努め、引き続き医療観察法病棟やスーパー救急病棟における安定した患者数を確保する必要がある。

また、地域の医療ニーズを踏まえて、発達障害やうつ病に対する認知行動療法を充実させ、うつ病に対するr TMS治療の導入を図ること等、一層の収益確保を図る。

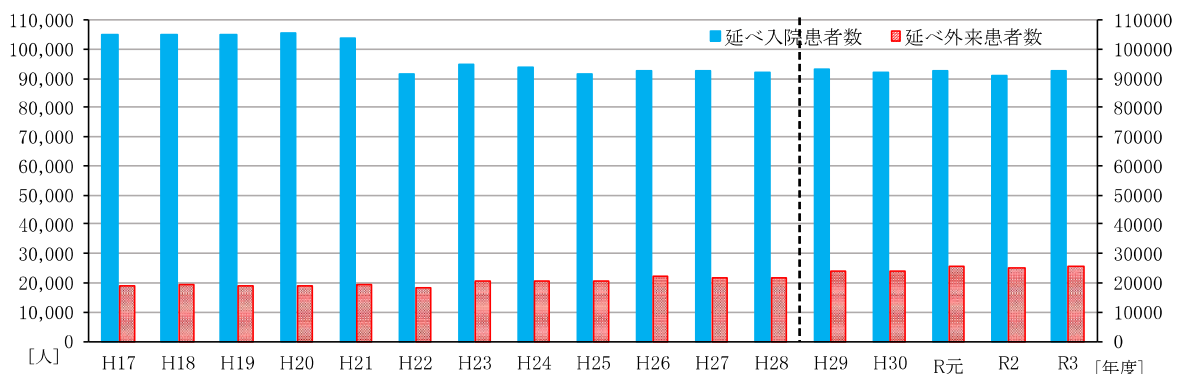
【図表1】始良病院の患者数の推移（H17～R3年度）

（単位：人）

年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
延べ入院患者数	104,852	104,798	104,733	105,309	104,089	91,492	94,846	93,599	91,700	92,838	92,674	91,899
延べ外来患者数	18,704	19,459	18,810	18,838	19,554	18,533	20,607	20,746	20,770	22,040	21,909	21,976

年度	H29	H30	R元	R2	R3
延べ入院患者数	93,131	91,780	92,694	91,129	92,614
延べ外来患者数	23,809	24,173	25,472	24,963	25,895



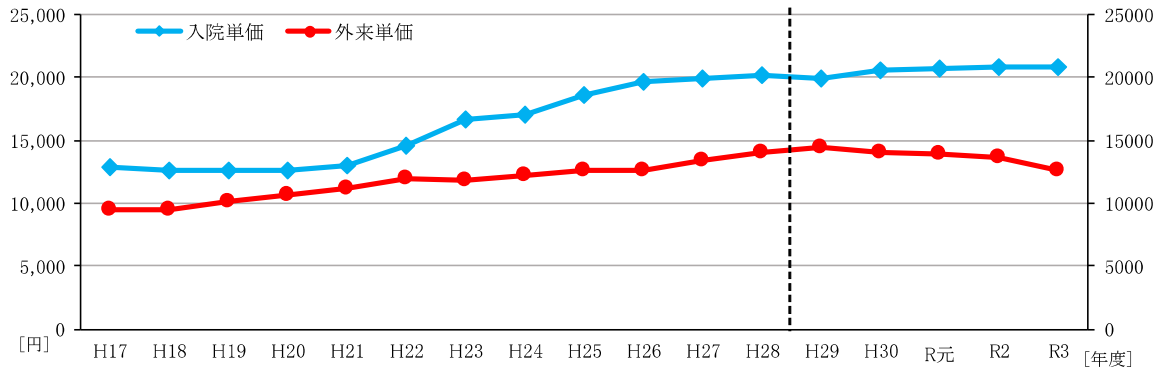
【図表2】 始良病院の診療単価の推移 (H17~R3年度)

(単位:円)

年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
入院単価	12,922	12,660	12,693	12,660	13,043	14,624	16,650	17,103	18,565	19,715	19,889	20,148
外来単価	9,562	9,472	10,127	10,735	11,149	11,951	11,836	12,248	12,659	12,687	13,372	14,108

年度	H29	H30	R元	R2	R3
入院単価	19,889	20,619	20,674	20,897	20,885
外来単価	14,428	14,022	13,981	13,668	12,584



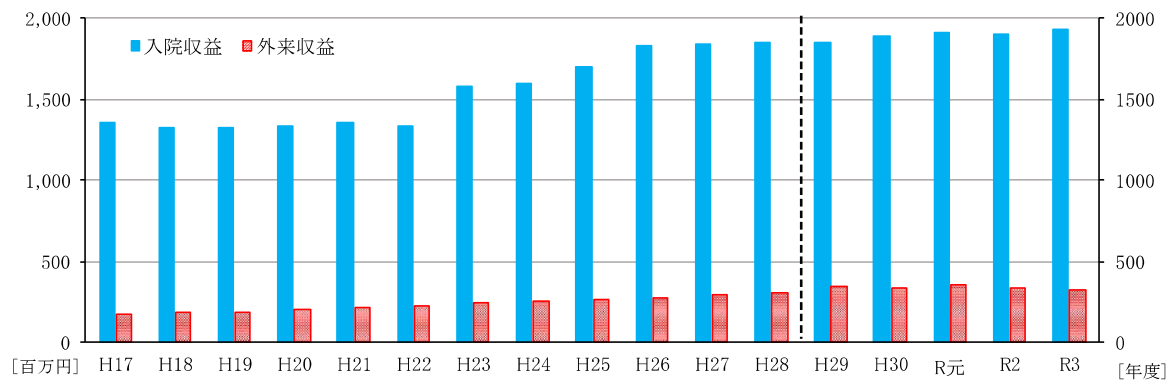
【図表3】 始良病院の診療収益の推移 (H17~R3年度)

(単位:百万円)

年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
入院収益	1,355	1,327	1,329	1,333	1,358	1,338	1,579	1,601	1,702	1,830	1,843	1,851
外来収益	179	184	190	202	218	222	244	254	263	280	293	310

年度	H29	H30	R元	R2	R3
入院収益	1,852	1,892	1,916	1,904	1,934
外来収益	344	339	356	341	326



## ② 費用削減策

材料費については、薬品費について令和2年度に後発医薬品への置き換えを行った結果、収益減以上の費用削減につながった。

経費については、費用の節減に取り組んだものの、発熱外来用のプレハブを設置するなどの新型コロナウイルス感染症対策費用の増加や、燃料単価の高騰など、外部環境の変化による支出の増加があった。

また、患者の診療環境の改善のために、計画的に病棟のリニューアル工事を実施した結果、病院整備費が増加した。

今後は、施設・設備の改修や更新の費用と減価償却費の増加が見込まれる。

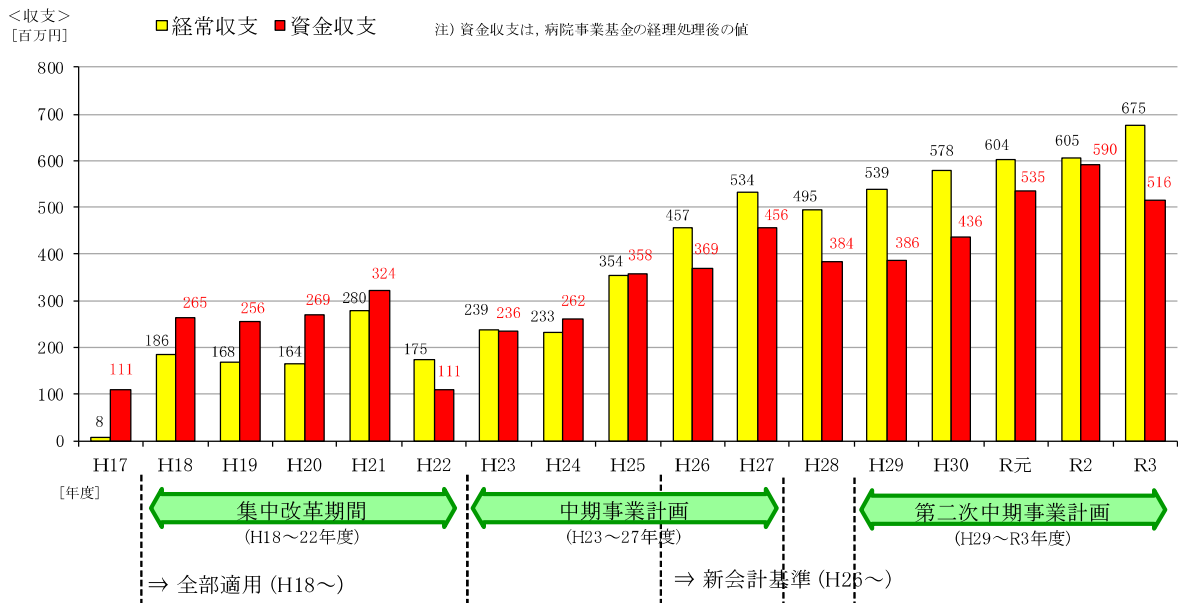
## ③ 収支目標

新型コロナウイルス感染症対策への支出増や、病棟のリニューアル工事等により、支出は増加したが、医療観察法病棟やスーパー救急病棟の安定的な診療収益が確保できたことにより、経常収支・資金収支とも黒字を維持できた。

今後とも、良質な医療を継続的に提供するためにも、経営の安定化は重要であることから、施設基準等の堅持や医療スタッフの養成・確保に取り組む。

また、施設改修等で増加する経費の節減に積極的に取り組むことにより、経常収支及び資金収支の黒字を維持していく必要がある。

【図表4】 始良病院の収支の推移（H17～R3年度）



## (2) 病院を取り巻く環境（現状と課題）

### ① 診療圏人口の減少に伴う患者減

当院は、本県の精神科医療の中核的医療機関として、全県、全世代に対する精神科医療及び県内全域の精神科救急に対応しているが、本県の総人口は令和2年(2020年)の約158万人から、令和7年(2025年)には約151万人、令和12年(2030年)には約144万人と減少することが見込まれている。

当院の入院患者数の約63%、外来患者数の約66%は、始良市、鹿児島市、霧島市の患者であるが、この3市の人口も令和2年(2020年)の約79万人から、令和7年(2025年)には約77万人、令和12年(2030年)には約75万人と減少することが見込まれている。

人口減少に伴う患者減や高齢化への対応が課題である。

## ② 地域の医療ニーズと医療提供体制

精神科救急情報センターとして、救急患者の受入れについて県内全域の精神科病院と連携・調整を行うとともに、他の精神科病院で受入れができなかった処遇困難な急性期入院患者を全て受け入れてきたが、今後も同様の体制を維持するためには、医師や医療スタッフの確保が課題となる。

## ③ 自病院の医療機能（強み・弱み）

当院は県内唯一の公立精神科病院であり、県内唯一の医療観察法指定病院である。

また、精神科救急情報センターの役割を担っており、年間365日24時間いかなる入院形態の急患にも対応している「常時対応型精神科救急医療施設」である。

高度な精神科医療（クロザピン、mECT治療等）を積極的に提供し、民間で採算の取れない精神科医療を提供している。

これらの機能・役割を継続していくために、医師や医療スタッフの確保、民間病院との施設面の格差の解消、関係機関との連携、病床確保のための長期入院患者の解消等の課題がある。

## 2 病院の基本方針

常時対応型精神科救急医療施設や応急入院に対応できる病院として、スーパー救急病棟を中心とした入院体制を維持する。

本県の精神科救急情報センターとして、救急患者の受入れについて県内全域の精神科病院と調整を行うとともに、他の精神科病院で受入れができなかった処遇困難な急性期入院患者を全て受け入れる。

触法精神障害者に対応するため、医療観察法病棟の入院体制を引き続き堅持するとともに、急性期患者への対応を充実させるため、急性ストレスや急性の児童・思春期疾患へ対応できる診療機能を強化する。

高度な精神科医療（クロザピン、mECT治療等）を積極的に提供し、民間で採算の取れない精神科医療を提供する。

入院患者の地域移行を更に進めるため、地域医療連携室による退院支援を積極的に行い、デイケアや訪問看護を充実させて、地域移行後の患者のケアを強化する。

## 3 病院の目指すべき将来像

### (1) 公立病院としての役割

本県における精神科の中核的医療機関として、民間医療機関との適切な役割分担と連携を図りながら、精神科における高度・専門医療を提供するとともに、医療ニーズを踏まえ、認知症、自閉症、その他の発達障害、不安障害、高次脳

機能障害、依存症などの専門外来を設置する。

県内唯一の県立の精神科医療機関として、各種の指定を受け、精神科救急医療、司法鑑定等の役割を担うとともに、専門医研修施設として、医師をはじめ、様々な職種 of 医療スタッフの人材を養成する。

また、県民へ精神疾患や精神科治療に対する啓発活動を積極的に行う。

## (2) 急性期医療の充実

県内唯一のスーパー救急病棟を開設する医療機関として、他の医療機関や福祉施設等との適切な役割分担と連携を図りながら、訪問看護やデイケア、デイナイトケアを充実して、在宅で療養できる環境を整備し、急性期入院患者の早期地域移行を進める。

急性期のストレスや児童・思春期疾患などの医療ニーズに対応した医療を提供する。

急性期の医療提供体制を充実するため、医師、看護師、精神保健福祉士、公認心理師等の必要な人材を確保するとともに、医療スタッフの技術向上等、人材養成に努める。

## (3) 救急医療の充実

常時対応型精神科救急医療施設や応急入院指定病院として、救急患者に365日24時間対応する。また、県の精神科救急情報センターとして、時間外、休日における関係医療機関等との調整を行う。

精神科救急医療システムにおける始良・大隅ブロックの日曜日・祝日の輪番制の医療機関として、他の医療機関との連携により救急医療を提供する。

また、地域の医療ニーズや患者の精神疾患動向を見極めながら、今後、病棟の再編や救急病棟の拡充を検討していく。

## (4) 地域包括ケアシステムの構築に向けた役割

精神障害者の地域包括ケアシステムの後方支援病院として、地域での対応が困難な急性期、重篤な患者を受け入れるとともに、退院後の地域定着のため、デイケアやデイナイトケア、訪問看護を充実する。

## (5) 地域が必要とする医療への対応

発達障害やうつ病に対する認知行動療法や、児童思春期への心理療法等の強化を図るとともに、うつ病患者に対する r T M S 治療の導入を図る必要がある。

## (6) 災害時の医療機能の充実

大規模災害に備えた D P A T（災害派遣精神医療チーム）の体制を堅持するとともに、災害時・非常時にも継続して医療を提供できる体制を整備する。

併せて、災害拠点精神科病院の指定を目指す。

## 4 計画の目標及び具体的取組

### [ 医療面 ]

#### (1) 目標

##### ① 短期的（計画開始から2～3年経過時）目標

- ア 医師や公認心理師等の医療スタッフの充実により，精神科救急病院としての役割を堅持する。
- イ 発達障害やうつ病に対する認知行動療法や，児童思春期への心理療法等の充実を図る。
- ウ 災害対応能力の強化を図る。

**② 中期的（2027年度（計画終了時））目標**

- ア 様々な精神疾患に対する体制整備を行い，精神科救急医療機能をさらに充実する。
- イ 精神科救急病棟の体制の強化，機能の充実を図る。
- ウ 訪問看護体制の充実を図る。
- エ 発達障害やうつ病に対する認知行動療法や，児童思春期への心理療法等の強化を図る。
- オ 災害拠点精神科病院の指定を受ける。

**③ 長期的（2032年度）目標**

県内における精神科医療の中核として，精神科救急情報センターの役割や救急からの地域移行支援が一体的にできる医療機能を更に充実・強化する。

**(2) 目標達成に向けた具体的取組**

**① 地域医療構想等を踏まえた医療機能の充実・強化に向けた取組**

- ア 精神科救急急性期入院料の施設基準の維持を図る。
- イ r TMS 治療の提供を開始する。
- ウ BCP を作成する。
- エ 医師や公認心理師等の医療スタッフの確保により，「児童・思春期入院料」，「急性期入院料」等の施設基準を取得する。
- オ 救急病棟の拡張の検討を行う。
- カ 多様な精神科医療へ対応できる病院機能の強化及び医療連携体制の構築を図る。

**② 機能分化・連携強化，地域包括ケアシステムの構築に向けた取組**

- ア 精神科救急情報センターとして，救急患者の調整を行うとともに，県連携拠点機能病院として，鹿大や地域の精神科病院との精神疾患患者に対する連携を図る。
- イ 身体疾患の合併患者に対しても必要な医療が提供できる連携を図る。
- ウ 地域の行政や高齢者福祉施設等との連携強化を図る。
- エ 精神障害者の地域包括ケアシステムの後方支援病院として，地域での対応が困難な急性期，重篤な患者の受入れを継続する。
- オ 地域医療連携室の体制の強化により，入院患者の一層の地域移行を支援する。

**③ 新興感染症の感染拡大時に備えた平時からの取組**

- ア 始良地区医師会や，始良地域において感染対策向上加算1を算定している医療機関との連携により，新興感染症に関する情報交換等の体制を充実



させる。

- イ 令和3年度に整備した陰圧環境を整えた感染症病床について、精神疾患を有する感染症患者を積極的に受け入れる。
- ウ クラスターの発生防止対策として、患者、職員、家族における健康観察の徹底や、感染者・濃厚接触者の情報収集に努める。
- エ 常勤の臨床検査技師が1人のため、看護師等に検査機器の操作方法を教授して、臨床検査技師不在時の検査体制を整備する。

### 【数値目標(共通項目・病院独自設定項目)】

「数値目標(共通項目・病院独自設定項目)」は、97ページの表のとおり

### [ 経営面 ]

#### (1) 目標

- ア 増収策や費用削減策を着実に実行することで、経常収支及び資金収支の黒字化を堅持し、利益剰余金の蓄積を図る。
- イ 急性期患者や救急患者、医療観察法に基づく患者などを積極的に受け入れて患者数の確保を図る。
- ウ 現在取得している施設基準を維持し、安定的な収益の確保を図る。
- エ 未収金の発生防止及び滞納者への督促により、未収金の縮減に努める。

#### (2) 目標達成に向けた具体的取組

##### ① 収益確保策

- ア クロザピンの新規導入患者の確保を図り、精神科急性期医師配置加算の維持を図る。
- イ 精神保健指定医数の確保やデータ提出加算の取得により、精神科救急急性期入院料を継続的に算定可能とする。精神科急性期医師配置加算を継続して算定可能とする。
- ウ 福祉制度の活用や、退院前の患者との面談により、未収金の発生防止に努める。
- エ 電話や文書による督促、訪問による督促により、未収金の回収に努めるとともに、納入に応じない未納者については、法的措置を行う。

##### ② 費用削減策

- ア 計画的かつ効率的な業務を行うことにより、超過勤務の縮減を図る。
- イ 節電、節水による光熱水費の節減や、両面コピーの推進によるコピー紙の使用量の減による消耗品費の節減等、経費の節減を図る。
- ウ 後発医薬品への置き換えや、診療材料の在庫管理の徹底等により、材料費の節減を図る。
- エ 施設や資産の整備については、費用対効果を十分に検討し、整備計画に基づいた執行を行う。

### 【収支目標・数値目標(経営指標)】

「収支目標」及び「数値目標(経営指標)」は、98～100ページの表のとおり

【図表5】始良病院の数値目標(共通項目・病院独自設定項目)

区分	No	項 目	単位	H30年度 ～R3年度 (実績平均)	R4年度 (見込)	計画期間				
						R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
共通項目	1	紹介率	(%)	30.7	30.6	34.0	34.0	34.0	33.9	33.9
	2	逆紹介率	(%)	49.7	49.4	55.2	55.1	55.1	54.9	54.9
	3	緊急自動車による搬送件数	(件)	232	252	257	257	257	256	256
	4	精神科訪問看護	(件)	3,657	3,982	4,435	4,399	4,363	4,344	4,399
	5	健康・医療相談件数	(件)	7,536	7,536	8,360	8,358	8,357	8,322	8,322
	6	薬剤管理指導件数	(件)	160	80	177	177	177	176	176
	7	精神科作業療法	(件)	25,649	25,649	28,453	28,445	28,442	28,324	28,322
	8	個別栄養指導件数	(件)	7	6	8	8	8	8	8
	9	クリニカルパス使用率	(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	10	患者満足度	(%)	84.3	87.0	88.5	89.5	90.5	91.5	92.5
	11	臨床研修医の受入件数	(件)	23	23	24	24	24	24	24
病院独自設定項目	1	クロザピン治療件数	(件)	30	30	31	31	31	31	31
	2	mECT治療件数	(件)	399	400	419	419	419	419	419
	3	精神科デイケア	(件)	4,512	4,152	4,737	4,737	4,737	4,737	4,737
	4	精神科地域連携パス適用件数	(件)	56	50	58	58	58	58	58
	5	新専門医制度による専門医養成数	(人)	0	0	1	1	1	1	1
	6	精神科認定看護師養成数	(人)	1	0	1	1	1	1	1
	7	精神科薬物療法認定薬剤師養成数	(人)	0	0	1	1	1	1	1

【図表6】 始良病院の収支目標

(単位: 百万円)

項目名	H30年度 ~R3年度 (実績平均)	R4年度 (見込)	計画期間					
			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
総収益	①	3,238	3,297	3,490	3,529	3,529	3,557	3,552
医業収益	②	2,279	2,272	2,506	2,539	2,539	2,562	2,562
診療収益		2,252	2,251	2,484	2,517	2,517	2,540	2,540
入院収益		1,912	1,930	2,130	2,161	2,161	2,184	2,184
外来収益		341	321	354	356	356	356	356
他会計負担金(繰入金)	③	16	10	11	11	11	11	11
その他	※3	11	11	11	11	11	11	11
修正医業収益(②-③)		2,263	2,262	2,495	2,528	2,528	2,551	2,551
医業外収益	④	943	1,025	985	991	991	996	991
他会計負担金		820	925	884	884	884	884	884
補助金		18	4	1	1	1	1	1
長期前受金戻入	⑤	87	80	81	87	87	92	87
その他		19	16	19	19	19	19	19
特別利益	⑥	16	0	0	0	0	0	0
総費用	⑦	2,625	2,829	2,863	2,850	2,849	2,827	2,816
医業費用	⑧	2,600	2,824	2,860	2,847	2,846	2,824	2,813
給与費		1,732	1,842	1,849	1,849	1,849	1,811	1,811
正職員給与費		1,546	1,563	1,564	1,564	1,564	1,564	1,564
会計年度任用職員給与費		59	114	121	121	121	121	121
退職給付費		127	165	164	164	164	126	126
材料費		349	360	371	389	389	392	392
うち薬品費		263	239	240	266	266	269	269
経費		371	447	456	413	413	417	417
うち委託費		211	237	251	262	262	264	264
減価償却費	⑨	141	170	177	189	188	197	186
その他		7	5	7	7	7	7	7
医業外費用		8	5	3	3	3	3	3
うち支払利息		6	1	1	1	1	1	1
特別損失	⑩	18	0	0	0	0	0	0
医業収支(②-⑧)		▲321	▲552	▲354	▲308	▲307	▲262	▲251
3条収支(①-⑦)	⑪	613	468	627	679	680	730	736
経常収支(⑪-(⑥-⑩))	⑫	615	468	627	679	680	730	736
減価償却等前収支(⑫-⑤+⑨)	⑬	669	558	723	781	781	835	835
資本的収支								
総収入	⑭	288	143	147	228	271	53	58
企業債		64	12	25	170	106	33	33
他会計負担金		222	120	122	58	165	20	25
補助金		0	11	0	0	0	0	0
その他		2	0	0	0	0	0	0
総支出	⑮	437	261	271	286	436	73	83
建設改良費		307	237	250	268	417	48	48
病院整備費		264	215	213	220	369	0	0
資産購入費		43	22	37	48	48	48	48
企業債償還金		127	24	21	18	19	25	35
その他		4	0	0	0	0	0	0
4条収支(⑭-⑮)	⑯	▲150	▲118	▲124	▲58	▲165	▲20	▲25
資金収支(⑬+⑯)	⑰	519	440	599	723	616	815	810
累積剰余(欠損)金		-	2,895	3,500	4,155	4,797	5,523	6,255

※1 金額は各病院単独(県立病院課分配賦前)。

※2 「H30年度~R3年度(実績平均)」及び「R4年度(見込)」はコロナ対応に係る補助金等を含み、「R5年度」以降は見込んでいない。

※3 「医業収益」の「その他」については、H30年度~R2年度の3年間の実績平均。

※4 「累積剰余(欠損)金」については、本来税抜き計算のため実際の額とは異なる。

【図表7】 始良病院の数値目標(経営指標)

区分	No.	項目	単位	H30年度 ~R3年度 (実績平均)	R4年度 (見込)	計画期間				
						R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
主要項目										
	1	入院患者数	(人)	92,054	91,853	97,258	97,231	97,218	96,815	96,810
	2	1日平均入院患者数	(人)	252.1	252.0	266.0	266.0	266.0	265.0	265.0
	3	入院単価	(円)	20,769	21,030	21,901	22,229	22,229	22,561	22,561
	4	病床利用率	(%)	94.4	94.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0
	5	平均在院日数	(日)	151.2	131.9	151.2	151.2	151.2	151.2	151.2
	6	新入院患者数	(人)	574	650	603	603	603	603	603
	7	外来患者数	(人)	25,126	25,272	26,546	26,539	26,535	26,425	26,424
	8	1日平均外来患者数	(人)	103.1	104.0	108.4	109.2	110.1	110.1	109.2
	9	外来単価	(円)	13,564	12,687	13,353	13,419	13,419	13,484	13,484
	10	新外来患者数	(人)	959	1,150	1,007	1,007	1,007	1,007	1,007
収益性										
	1	入院収益	(百万円)	1,912	1,930	2,130	2,161	2,161	2,184	2,184
	2	外来収益	(百万円)	341	321	354	356	356	356	356
	3	経常収支	(百万円)	615	468	627	679	680	730	736
	4	減価償却等前収支	(百万円)	669	558	723	781	781	835	835
	5	資金収支	(百万円)	519	440	599	723	616	815	810
	6	経常収支比率	(%)	123.6	116.5	121.9	123.8	123.9	125.8	126.1
	7	医業収支比率	(%)	86.9	80.3	87.5	89.1	89.1	90.6	91.0
	8	修正医業収支比率	(%)	87.1	80.1	87.2	88.8	88.8	90.3	90.7
	9	医業利益率	(%)	▲14.1	▲0.2	▲0.1	▲0.1	▲0.1	▲0.1	▲0.1
	10	償却前医業利益率	(%)	▲7.9	▲16.8	▲7.1	▲4.7	▲4.7	▲2.5	▲2.5
	11	経常利益率	(%)	27.0	20.6	25.0	26.8	26.8	28.5	28.7
	12	固定費比率	(%)	82.4	88.6	80.9	80.3	80.3	78.4	78.0
	13	材料費対 医業収益比率	(%)	15.3	15.8	14.8	15.3	15.3	15.3	15.3
	14	材料費対 修正医業収益比率	(%)	15.4	15.9	14.9	15.4	15.4	15.4	15.4
	15	薬品費対 医業収益比率	(%)	11.5	10.5	9.6	10.5	10.5	10.5	10.5
	16	薬品費対 修正医業収益比率	(%)	11.6	10.6	9.6	10.5	10.5	10.5	10.5
	17	後発医薬品の使用 割合	(%)	17.4	20.6	20.6	20.6	20.6	20.6	20.6

【図表7】 始良病院の数値目標(経営指標)

区分	No.	項目	単位	H30年度 ～R3年度 (実績平均)	R4年度 (見込)	計画期間				
						R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	18	委託費対 医業収益比率	(%)	9.3	10.4	10.0	10.3	10.3	10.3	10.3
	19	委託費対 修正医業収益比率	(%)	9.3	10.5	10.1	10.4	10.4	10.3	10.3
	20	減価償却費対 医業収益比率	(%)	6.2	7.5	7.1	7.4	7.4	7.7	7.3
	21	減価償却費対 修正医業収益比率	(%)	6.2	7.5	7.1	7.5	7.4	7.7	7.3
	22	医療機関関係係数		-	-	-	-	-	-	-
	23	職員給与対 医業収益比率	(%)	75.3	80.3	73.1	72.1	72.1	70.0	70.0
	24	職員給与対 修正医業収益比率	(%)	75.8	80.6	73.4	72.4	72.4	70.3	70.3
	25	(常勤)医師1人当 たり診療収益	(百万円)	254.4	204.6	225.8	228.8	228.8	230.9	230.9
	26	(常勤)看護師1人 当たり診療収益	(百万円)	16.9	16.4	18.1	18.4	18.4	18.5	18.5
	27	100床当たり職員数	(人)	61.2	62.2	62.2	62.2	62.2	62.2	62.2
	28	職員給与対 診療収益比率	(%)	76.2	81.0	73.7	72.8	72.8	70.6	70.6
安定性										
	1	医師数	(人)	9	11	11	11	11	11	11
	2	看護師数	(人)	134	137	137	137	137	137	137
	3	その他医療従事者 数	(人)	21	18	18	18	18	18	18
	4	純資産の額	(百万円) ※	6,821	7,267	7,872	8,527	9,169	9,895	10,627
	5	現金保有残高	(百万円) ※	4,236	4,676	5,275	5,999	6,615	7,430	8,240
	6	企業債残高	(百万円) ※	245	233	237	389	476	484	482
	7	不良債務比率	(%)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	資金不足比率	(%)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	累積欠損金比率	(%)		127.4	139.7	163.7	189.0	215.6	244.2

※ 純資産の額、現金保有残高、企業債残高の「H30年度～R3年度(実績平均)」については、R3年度末の額を記載している。